

7 障害児が地域で健やかに育つ環境づくり

【き】 始まりは、心身障害児の保護者たちの 小さな集まりでした

誰もが迎える高齢化とは異なり、障害に関する情報は入手しづらいという現状があります。お母さんたちが井戸端会議で情報交換をしていましたが、五色町の施設、わたぼうし保護者会の担当者から、「津名郡のお母さん方で一同に集まってみませんか?」と声をかけられたのがきっかけです。平成15年4月から活動を始めました。



イベント「共に生きる集い」でのバザー出店

【概】 定期的な集まりと情報交換、NPO法人などとの協働へ

現在は、定例会を開催して会員相互の情報交換を行うとともに、関西総合リハビリテーション専門学校による活動場所や様々な技術的アドバイスの提供を受けて活動しています。

また、福祉活動を目的とする「NPO法人淡路サポートセンターまあるく」とも協働し、支援費制度をはじめとした制度に関する知識を深め、会の活動に生かしています。

【成】 親同士の内輪の話し合いから、組織的な情報収集・発信へ

活動が定期的・計画的に行われるようになったことで、多くの方々の積極的な参画を得られ、活発な情報交換と地域への情報発信が行われています。また、目の前の問題だけを考えるだけでなく、「インナーボイス」との交流を通じて、長期的な視点から問題解決に取り組む土壌ができつつあります。

【夢】 「心のバリアフリー」をめざして

子どもたちの世界では“障害児”という言葉は存在せず、誰もが〇〇ちゃん、〇〇くんです。たんぽぽの会の親子が地域へ出て、地域に根ざした活動をすることで、心のバリアフリーをめざしたいと思えます。

たんぽぽの会

代表者氏名:美濃扶巳乃
活動地域:洲本市、淡路市、五色町
事務所等:淡路市津名町生穂1524
電話番号:0799-64-0643

組
とも
んだ
取り
団
体
等

NPO法人淡路サポートセンターまあるく

支援費制度に係る情報交換やその活用を図るため

関西総合リハビリテーション専門学校

活動場所の確保と専門的なアドバイスを得るため

インナーボイス

青年期以上の障害者を持つ保護者会との交流を図るため

活用した支援

地域づくり活動応援事業（兵庫県）



私たちの活動と教育実習が出会いました

会を立ち上げる際、保護者が何度も集まって話し合いました。しかし、確保できた場所はバリアフリーが行き届いておらず、子供たちが暴れて怪我をしないか心配など、安心して相談できる環境ではありませんでした。

関西総合リハビリテーション専門学校の作業療法士、北山さんに相談しました。北山さんに、生徒たちの教育実習の場として借り受けた志筑カリヨン広場の空き室をたんぼぼの会の活動拠点としてはどうかと勧められ、難題であった場所づくりが解消されました。私たちにとっては、場所を無償で得ることができる、先方にとっては学生たちの実習に活用できる、お互いにとって良い提案をしていただけました。



バザーなどを通じて、積極的に地域に出て行く

障害児を持つ保護者同士の情報交換が目的で活動していますが、自分たちだけで情報を共有するのではなく、地域にどんどん出て行くことが大切だと考えています。なぜなら、それまで障害と縁のなかった方たちに私たちの活動を知ってもらい、障害について正しい知識を得てもらうことで、地域における「心のバリアフリー」が進んでいくと考えているからです。

そのため、私たちはリサイクルを目的としたバザー等、地域行事に積極的に参加し、地域への情報発信と連携を図っています。

求ム!

研修会やバザー等を行う際に、お手伝いしていただけるスタッフや、託児ボランティアを募集しています。その他、私たちの活動に関心を持たれた方は、左記連絡先までお問い合わせください。



講師を招いての研修会

読者の皆さんへのメッセージ

“障害”を持っている私たちの子どもが健やかに育つことのできる社会であれば、それはとりもなおさずすべての子どもが健やかに育つことのできる社会につながると思います。私たちの活動を応援してください。